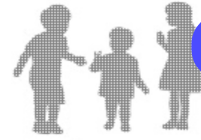


生長の家神の国寮だより

# 光の泉

the spring of light



第 23 号

令和2年度 12月号

公益財団法人 生長の家社会事業団  
 児童養護施設 生長の家神の国寮  
 〒186-0003  
 東京都国立市富士見台2-39-1  
 tel 042-572-8770  
 fax 042-573-9205  
<http://www.kamino92.or.jp/>

## 「和顔」「愛語」「讃嘆」の力

施設長 國弘昭義

「当たり前の日常」がどんなに有り難いかを、思い知らされた一年でした。

2月の休校措置以来、施設全体で新型コロナウイルス感染症対策に取り組んできました。

不要不急の外出を避ける「おこもり生活」は、児童にも職員にも大きなストレスとなり、「三密」を避けることは、今まで当たり前前に開催していた行事や会議の中止を余儀なくされました。盛大に卒業を祝っていた「巣立ちの会」はホーム毎の小規模開催となり、GW行事や夏季行事も休止や縮小を迫られました。

一方、こうしたマイナス状況を逆転するプラス思考のステキな取り組みも多く見られました。

幼児ホームでは、女性職員が段ボールでプラネタリウムを作り、映し出された星に大歓声が起こりました。急遽、本園



各ホームの「讃嘆ボード」

祈ってもらっています。私自身、心が暗くなると、瞑目合掌して何度もこの言葉を唱えます。職員・子ども達一人一人の笑顔を中心に浮かべながら

### 「讃嘆の樹」に 喜びと感謝の花を咲かそう！

11月22日、創立者谷口雅春先生のお誕生日を迎え「創立者感謝のつどい」を行い「讃嘆の樹」を作成しました。

各職員・児童が、それぞれのホームの児童や職員に対する「讃嘆の言葉」

や「感謝の言葉」を『讃嘆用紙』に記載し、ホーム毎に「讃嘆ボード」に貼り付けます。思い思いに作られた「讃嘆ボード」は、「笑顔あふれる神の国寮」讃嘆の樹に喜びと感謝の花を咲かそう！と

書かれた本園の掲示場所に飾り付けます。今年は、リモートで本園と各ホームをつなぎ、施設長から各ホームの「讃嘆ボード」を紹介しました。

「好きな事に一途で一生懸命な〇〇ちゃんを尊敬してるよ！一人の時間を大切にできる所、みんなのお手本になってるね♡」（高校生から小学生に）

「いつもりょうりつくってくれてありがとう。おいしいよ！」（小学生からパートさんへ）

「ニコニコがじょうずな〇〇ちゃん、いつもおひめさまみたいだね♡」（職員から幼児へ）

「将来の夢に向かって、手を抜かず頑張っている姿にいつも感心している。夢を叶えるために、これからも沢山の

壁にぶつかると思うけど、一つ一つ越えていこう！」（職員から児童に）

「頼れる人が少ない中で、大きな不安を抱えたままこの施設に入所しましたが、毎日悩みを相談出来る大人が身近にいる事にとても安心を感じています。沢山の支えてくださっている方々に感謝しています」（高校生から職員に）

「一緒に仕事をする仲間に、支えてくれるチームに、支えてくれるホーム長に感謝しています」（職員から職員に）

創立者谷口雅春先生は、次のように説かれていきます。

和顔、愛語、讃嘆は、人生に花を飾り、その柔らかな讃嘆の音楽的な言葉の響きは、人々の魂に反響して生き甲斐を与えることになるのである。人間は、自分がみとめられ 賛美されていることに生き甲斐を感じるものである。生きた人の口を通して生命をもって響いて来る愛語の声や讃嘆の言葉は、人間の魂を感動させ、生き甲斐を感じせしめ、前進の勇気を鼓舞し、善に向う衝動を引き出すことになるのである。

コロナ禍の不安が広がる「今」だからこそ、「和顔」「愛語」「讃嘆」を大切にしていきたいと思えます。子どもも職員も笑顔はじける「幸せいっぱい」の神の国寮をめざして！

末筆ながら、本年皆様方に賜りましたご支援ご協力に心より感謝申し上げます。良き年をお迎え下さいませ。